

ASD 児と定型発達児の比較による偏食に関する調査研究

A Comparative Study on Selective Eating Habits in Children with Autism Spectrum Disorder (ASD) and Typically Developing Children

児島 未央¹⁾

指導教員 岩本 直樹¹⁾, 河合 彩夏¹⁾

1) 東京家政学院大学 現代生活学部 食物学科 岩本ゼミ

現在、日本では自閉スペクトラム症 (ASD) を持つ人が約 100 人に 1 人いるとされている。ASD 児の抱える問題の一つに偏食が挙げられる。偏食の原因には見た目や味、においに加え、ASD 特有の感覚過敏が関係すると考えられる。本研究は、ASD 児と定型発達児の偏食の違いを調査し、比較することを目的とする。

キーワード：偏食, ASD, 発達障害, 未就学児

1. はじめに

現在、日本では自閉スペクトラム症 (ASD: Autism Spectrum Disorder) を持つ人は約 100 人に 1 人存在するとされている。また、「隠れ ASD」や「ASD グレーゾーン」といった現代社会で ASD と診断されないことで必要な支援が受けられずに生きづらさを感じている人が一定数いるとされている。ASD を持つ人は、こだわりが強く、限られた興味をもち、コミュニケーションなど対人関係を苦手とするなどの傾向がある¹⁾。ASD 児の抱える問題の一つとして偏食が挙げられる。極度の偏食は、日常生活に直結する問題であり学校生活や社会で生きていく中での困難となる。また、保護者の大きなストレス要因になりかねない。偏食は、心身の成長とともに改善していくこともあるが、一方で、改善することなく成人しても偏食を抱えたままの人もある²⁾。偏食の原因として見た目や味、においなど定型発達児と通じる理由もあれば、こだわりの強さ、感覚過敏などの ASD の特性によるものも存在すると考えられている。しかし、定型発達児と ASD 児の偏食の傾向の違いや考えられる理由に関する報告は少ない³⁾⁴⁾⁵⁾。

2. 目的

そこで本研究は、ASD 児の保護者と定型発達児の保護者、療育者、保育者に調査を依頼し、ASD 児と定型発達児の偏食の傾向を調査し比較を行い、偏

食の傾向及び ASD 児と定型発達児の偏食に関する違いについて明らかにすることを目的とする。本研究の結果が幼児期の児童の食事支援に貢献できると考える。

また、本調査での偏食の定義は、「特定の食品に対する好き嫌いがはっきりしていて、しかもその程度がひどいこと」⁶⁾とする。

3. 対象・方法

調査は 2 種類行う。

調査 1 の対象は、杉並区の某療育センター幼児教室を利用する医師から ASD または自閉傾向ありと診断を受けた未就学児と、国分寺市の某幼稚園を利用する未就学児のうち保護者から承諾を得た児童である。調査 2 の対象は、各施設の療育者及び保育者である。両調査は研究主旨や協力内容を各施設で口頭および文書で説明し、各施設を通じて保護者や療育者・保育者には説明書、同意書、同意撤回書、無記名自記式質問紙を配布する予定である。

また、分析はカイ二乗検定と t 検定を用いどちらも $p < 0.05$ を有意水準として解析・評価を行う。

本研究は、現在東京家政学院大学倫理審査委員会に申請中である。

4. 内容

(1) 調査 1

調査1の対象者には、14項目もしくは12項目について質問する。

① 基本属性

性別、年齢は共通の質問とし幼児教室の児童には医療機関での診断名及びIQ（知的レベル）もしくはDQ（発達レベル）について質問する。

② 保護者による食事場面の評価⁷⁾

日常生活における児童の食事場面4項目について質問する。質問項目は以下のとおりである。

- ・食事場面の困りごと
- ・食事場面の自立度
- ・使用している食具
- ・食事にかかる時間

③ 偏食について

児童の偏食について6項目について質問する。質問項目は、以下のとおりである。

- ・5品目（ピーマン・なす・きのこ・トマト・人参）の苦手意識とその理由⁸⁾
- ・上記5品目以外の食材・料理で全く食べられないものとその理由
- ・上記5品目以外の食材・料理で苦手だが食べられるものとその理由及び工夫
- ・苦手な食材の傾向や共通点
- ・過去に苦手だった食材・料理が現在食べられるようになった理由及び工夫とその時期
- ・将来的な食事面での不安の有無とその理由

(2) 調査2

調査2の対象者に4項目について質問する。質問項目は以下のとおりである。

- ・各施設を利用する児童の苦手な食材や料理の共通点や傾向
- ・各施設を利用する児童の年齢・発達と偏食の関係
- ・食事の際の自立度と偏食の関係
- ・偏食の原因についての見解

5. 今後について

現段階では、本研究は実際に調査するまでに至っていない。しかし、調査分析によりASD児の

偏食の原因、傾向、定型発達児との違いを明らかにできると考えている。また結果を家庭や教育現場に還元することでASDの診断の有無にかかわらず、偏食による困難を抱えている人が少しでも減少することを期待する。

6. 参考文献

- 1) 傳田健三 “自閉スペクトラム症 (ASD) の特性理解” 心身医学, 57 巻, 1 号, P19-26, 2017
- 2) 高橋 智 “発達障害を有する子どもの「食」の困難に関する実証的研究—発達障害の本人・当事者のニーズ調査から—” 平成 25 年度広域科学教科教育学研究経費研究成果報告書
- 3) 高橋摩理, 高橋真朗, 石崎晶子, 内海明美, 弘中祥司 “小児の摂食機能に関する研究—保育園児と自閉症スペクトラム障害児の比縦一” 小児歯科学雑誌, 58 巻, 3 号, P116-122, 2020
- 4) 篠崎昌子, 川崎葉子, 猪野民子, 坂井和子, 高橋摩理, 向井美恵 “自閉症スペクトラム児の幼児期における摂食・嚥下の問題” 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌, 11 巻, 1 号, P52-59, 2007
- 5) Jorge Molina-López, Beatriz Leiva-García, Elena Planells, Paloma Planells “Food selectivity, nutritional inadequacies, and mealtime behavioral problems in children with autism spectrum disorder compared to neurotypical children” International Journal of Eating Disorders, Vol. 54, (12), P2155-2166, 2021
- 6) 公益社団法人千葉県栄養士会 “偏食をなくそう” <https://www.eiyou-chiba.or.jp/> (参照 2024-10-17)
- 7) 木田春代 “幼稚園児の偏食と家庭・幼稚園における食育に関する研究” 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士論文, 2015
- 8) 緒方 智宏, 直井 美津子 “幼児期における嫌いな食品の変化と偏食との関連” 西九州大学健康栄養学部紀要, 1 巻, P13-19, 2015